

スポーツファシリティが及ぼす地域経済循環モデルと 効果検証に関する研究



経済学部 経営学科 教授

川上 祐司

KAWAKAMI, Yuji



その他

URL : <https://www.facebook.com/kawakamisemi2015/>

八王子キャンパス

キーワード：スポーツファシリティ、地域経済循環モデル、ファンエコノミクス

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

アリゾナ州フェニックス周辺都市にはメジャーリーグベースボール（以下 MLB）15 チームの拠点となるスポーツファシリティ（ボールパークを含む）が地元行政との協業により設立されている。毎年 3 月に開幕する MLB スプリングトレーニングキャンプでは、同内ボールパークに多くのファンが埋め尽くし、14 ドルのビールや 18 ドルのホットドッグが飛ぶように売れる。この空間における「楽しさ」が購買意欲に多大なる影響を及ぼす「ファンエコノミクス」がここに顕在化する。しかし、その恩恵は単に金額だけではない。地域雇用とコミュニティ、さらには環境をも支えている。わが国にもこのような社会インフラとして、また文化資本として、更には社会課題解決に向けたスポーツファシリティの整備が求められる。

本研究は、スポーツファシリティがコミュニティの中核となる①経済循環システムのメカニズムの検証と、②同スポーツファシリティ内での消費行動についてプロスペクト理論による「ファンエコノミクス」の解明を目指す。

わが国に天然芝の“世界でいちばん美しいフィールド”を設けることで、地域経済の活性化と地球温暖化防止にも貢献できるのではないかと！本研究はこれらの実現を目的とし、スポーツファシリティ設立に向けた実プロジェクトを北海道弟子屈町で立ち上げ、その過程より既述①②の検証と解明、さらには実用を試みる実証研究である。



【スポーツファシリティが及ぼす地域文化・経済循環モデル】

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

わが国ではスポーツリーグとプロチーム数が増大したが国内のスポーツ市場は約 2,000 億円程度に止まるのがわが国の現状で、アメリカプロスポーツ市場の 10%程度の規模である。また、その拠点となる「スポーツ施設の建築が相次ぐもこれらはリーグ参加ライセンスを「盾」に取りに地域住民の意思決定の反映もなく多額の税金が投入されているが「誰に」「何を」還元しているのか。また文化活動の経済学的な考察にも行き詰まりが指摘される中、スポーツ分野における都市計画や地域経済に反映できる有効なシステムの開発とスポーツを生産するシステム構成と諸活動のミクロレベルでの経済分析、さらには総体的な全体システムの相互作用関係の解明と有効なモデル化と提示が求められる。

知的財産・論文・学会発表など

- ・川上祐司 (2022)「アメリカのスポンサーシップ戦略に学ぶスポーツマーケティング―脱メディアバリューから社会課題解決に向けたスチュワードシップへの転換」晃洋書房
- ・川上祐司 (2019)「アメリカのスポーツ現場に学ぶマーケティング戦略―ファン・チーム・行政が生み出すスポーツ文化とビジネス」晃洋書房
- ・釧路新聞 (2024 年 8 月 20 日 1 面)「自然の中でスポーツ 弟子屈合宿型イベント開始」

スポーツスポンサーシップにおける効果測定と定量的評価効果に関する研究



経済学部 経営学科 教授

川上 祐司

KAWAKAMI, Yuji



その他

URL : <https://www.facebook.com/kawakamisemi2015/>

八王子キャンパス

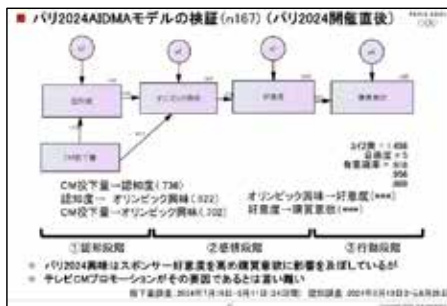
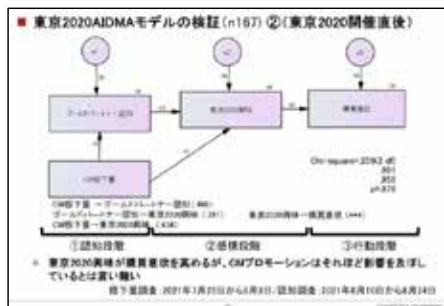
キーワード：スポーツスポンサーシップ、スポーツマーケティング

SDGs 目標 17：パートナーシップで SDGs 目標を達成しよう

研究の概要

東京 2020 オリンピック・パラリンピック（以下、東京 2020）では、大会開催が決定以来、同オフィシャルスポンサーへのパートナーシップ契約および大会番組内のテレビ CM 枠の販売が活況を呈した。さらに、1 年延期され無観客開催となったもののテレビ放送では番組を通じて同スポンサーに止まらず、多くのクライアントがテレビ CM を投下した。果たして各スポンサーの費用対効果は如何なものか？

本研究は東京 2020 およびパリオリンピック 2024 のゴールドパートナー等のテレビ CM を通じたプロモーション効果について「AIDMA（アイドマ）理論」を基に明らかにする。「AIDMA」とは消費者がある商品を知って購入に至るまでの 3 つの心理段階と 5 つのプロセス（1. 認知段階：① Attention（注目）、2. 感情段階：② Interest（関心）③ Desire（欲求）④ Memory（記憶）、3. 行動段階：⑤ Action（購買））から成る消費者の心理のプロセスを示した略語で、1920 年代にアメリカ合衆国の販売・広告の実務書の著作者サミュエル・ローランド・ホールが示したものであり今もクライアントの宣伝部員への基本的ナレッジとして活用されている。スポーツコンテンツを活用した場合では約 10% 程度の認知効率アップが認められるという広告代理店のセールス文句である当購買プロセスの信憑性について東京・パリの両オリンピックより検証する。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

企業クライアントにとって広告効果測定は永遠の課題である。昨今、注目を集めるスポーツへのスポンサーシップもわが国では依然としてメディアバイイングが中心であり、その殆どが大手広告代理店経由の商流となる。さらに東京 2020 では多くの事件が発生している。漸くその商流に課題が浮き彫りになりつつあるわが国のスポーツスポンサーシップに、クライアント側の思想とマーケティングスキルが求められる。本研究は、スポンサーとスポンシーとの Win-Win 構築に向けたスポンサーシップ効果測定手法の開発によって、スポーツへの投資意欲を促進させるとともに、わが国スポーツビジネスの活性化と拡大が見込まれる。加えてスポーツスポンサーシップの新たな価値とビジネスロジックの変革に繋げる。

知的財産・論文・学会発表など

- 川上祐司 (2022) 「アメリカのスポンサーシップ戦略に学ぶスポーツマーケティング—脱メディアバリューから社会課題解決に向けたステュワードシップへの転換」 晃洋書房
- 日本スポーツ産業学会第 32 回大会 (2023 年 7 月 22 日～ 23 日)

食品廃棄削減に資する 家庭系廃棄物組成調査手法の開発



文学部 社会学科 教授

渡辺 浩平

WATANABE, Kohei

その他

八王子キャンパス

キーワード：家庭ごみ、食品ロス、SDG 指標、国際標準、スマート家電**SDGs 目標 12：つくる責任、つかう責任****研究の概要**

世界では生産された食料の 1/3 が食べられることなく廃棄される一方で、7 億人近い人々が日々の栄養摂取に苦慮していると言われている。生産から消費までの食料システムは温室効果ガス排出量の 30% を占めるという試算もある。

こうしたなかで SDG ターゲット 12.3 は「生産・流通段階での food loss を削減し、小売・消費段階での food waste を半減する」と設定されている。現在 food loss /food waste の定義や計測方法について国際的に検討がなされており、本研究はそれに資することを目的としている。

本研究は家庭より排出されるものの把握に焦点を当て、日本チーム（京都府立大・山川教授、大正大・岡山教授、帝京大・渡辺）が主導する国際共同研究として進められており、オーストリア、イタリア、英国、ドイツの研究者らが参加している。

家庭由来の食品廃棄の把握には、実際排出されたごみの組成調査が最も有効とされており、本研究で目標とするのは、国際標準として適用できる（1）概念が明解、（2）作業が困難でない、（3）取組や施策に有効な手順を提案することである。

現在までにヨーロッパの研究者らとの検討や日本に引き共同で組成調査を実際に行うなどの活動を通じて手順を確立した。この方法を適用し、家電メーカと連携して「スマート冷蔵庫」の開発にあたり、AI を用いた庫内認識による食品ロス削減効果を測定する予定である。



[図]家庭より排出された「未開封食品」組成区分の例

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- * 国連環境計画（UNEP）担当者と協議を行った結果、SDG12.3.1b 指標のガイドラインに本研究での提案が反映された。ISO20008 食品ロス計測・報告規格の策定にも専門委員として参画している。
- * 食品ロス削減法（2019）の制定により各市町村は食品ロス削減計画の策定が求められており、その基礎データの収集方法として本手法を適用していただいている。環境省策定の手順書にも反映されるよう現在協議中である。

知的財産・論文・学会発表など

- * 渡辺浩平, 岡山朋子, 山川肇 (2020) 「家庭からの食品廃棄の実態把握の方法 ～持続可能な開発目標 (SDG) 12.3 に対応して～」全国都市清掃研究・事例発表論文集 vol.41 pp.123-125
- * Tomoko Okayama, Kohei Watanabe, Hajime Yamakawa (2021) Sorting Analysis of Household Food Waste - Development of a Methodology Compatible with the Aims of SDG12.3, Sustainability vol.13 pp.8576-8595

その他

デジタルツールと知識の共創



外国語学部 外国語学科 教授

ブラッドリー ジョフ P.N. Joff P.N. Bradley



その他

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.3f0b30302989fc70.html>

八王子キャンパス

キーワード：スティグレール哲学、エコゾフィー、デジタルツール

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要



長期的な目標は、留学中の学生が現地の環境を歩いて探索することを奨励するオープンソースアプリを作成することです。もう一つの目標は、異文化理解と知識の共創を促進することです。このアプリを通じて、学生は教員や現地学生の持つ現地の知識を活用して新しい環境をナビゲートすることができます。アプリを利用して、ビデオ、写真、ボイスメモ、テキストノートを記録することができ、帰国後に外国語学部外国語学科留学事後研修の振り返りの際に、それぞれの体験を簡単に再現することができます。

このアプローチは、フェリックス・ガタリのエコゾフィー、風土学、言語風景 (linguistic landscaping)、記号論、トランスランゲージング (translanguaging)、多重識字法 (multiliteracies) の方法論と一致しています。これにより、学生の留学経験全体が向上し、言語学習 (language learning)、言語共有 (language sharing)、異文化コミュニケーション (intercultural communication) を促進するために技術を効果的に活用することができます。現地の学生は、日本の学生を興味深い場所に導くためにキュレーションされた知識 (ラテン語: *curatio*) を提供し、「学習散歩」の中でクイズに挑戦したり、QR コードを通じてさらなる情報を受け取ったりすることができます。また、このアプリを使えば、日本の学生が現地の学生に日本文化について議論したり紹介したりすることもできます。この「学習散歩」のアイデアは、Célestin Freinet の「*la classe-promenade*」に由来しています。このプロセスは、哲学者 Bernard Stiegler の言うところの「知識の旅 (journey of knowledge)」と一致しています。それは情報のキュレーションを伴い、精神的、治療的、そして教育的な目的を果たす「ギリシャ語: *therapeia*」となります。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

主な目標

- ・日本国内外の教師や教育関係者が使用できるアプリを開発すること
- ・日本、韓国、インド、台湾、オーストラリア、香港間の研究ネットワークを拡大すること

知的財産・論文・学会発表など

- ・Bradley, J. P. N. (2024). Videolanguaging the urban smart city-Metaverse nexus. Asia Culture Center.
- ・Bradley, J. P. N. (2024). *On critical postmedia and Korea: Philosophy, technology, literature*. Lexington Books.
- ・Bradley, J. P. N. (2024). *Critical essays on Bernard Stiegler: Philosophy, technology, education*. Cambridge Scholars Publishing.
- ・Bradley, J. P. N. (2023). *On the détournement of the smart city: A critical post-media study of the smart city in Korea, Japan, and India*. Asia Culture Center.
- ・Bradley, J. P. N. (2023) (Ed.). *Bernard Stiegler and the philosophy of education II: Experiments in negentropic knowledge*. Routledge.
- ・Bradley, J. P. N. (2022). *Schizoanalysis and Asia*. Bloomsbury.

身体を通した学びの思想



教育学部 教育文化学科 准教授
中澤 雄飛 NAKAZAWA, Yuhi

URL : <https://researchmap.jp/y-ynakazawa>



その他

八王子キャンパス

キーワード：身体論、身体文化論、芸道論、体育・スポーツ哲学、体育科学

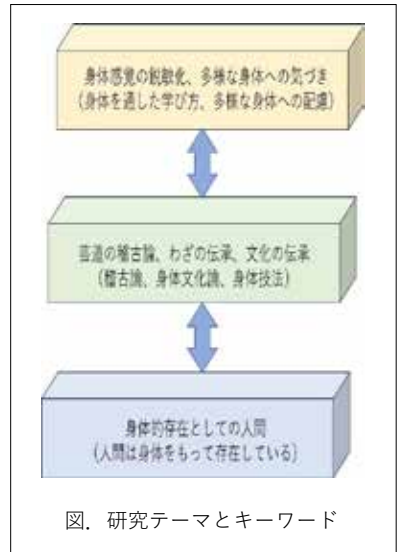
研究の概要

体育・スポーツ・健康科学における「体育・スポーツ哲学」と呼ばれる研究領域を主たるフィールドとしています。それは、体育・スポーツのさまざまな諸問題や諸現象に対して、哲学や思想を用いて考え方やアイデア・見方等を提案する科学です。

私は、その中でも特に人間の身体に着目し、「スポーツする身体とは何か?」、「身体運動に内在する教育学的意義とは何か?」といった、いわゆる身体論を得意としています。これまでは、我が国の身体運動文化として伝承される芸道の稽古論を身体の視座から読み解き、身体への教育論として再評価する研究を行ってきました。武道や茶道、華道、書道、舞踊等の日本の伝統芸道の思想は、日本の歴史の中で育まれてきたものであり、それゆえに西洋の哲学や理論とは異なる、新しい視点を示唆してくれます。

近年では、上記の研究の延長として、「身体で学ぶ」ことに興味・関心を抱いています。人間は、文化を身に纏うことでより豊かに生きることができると考えるならば、人間のコミュニケーションや多様な活動に対しても、身体への教育は貢献できることなのでしょう。そしてそれは、「身体能力を高める」という従来の体育・スポーツの考え方に貢献するのみならず、多様な人々がより豊かに、そしてより健康に生きるための、広範な意味での人間の教育や教養として重要なものになると考えています。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

体育・スポーツは、マスメディアの影響によってイメージされることが多いですが、一人ひとりの身体は異なるものです。体育・スポーツ哲学をはじめとする体育・スポーツ・健康科学の人文科学的研究方法は、その前提を一度立ち止まって疑い、問い直すことが可能です。

したがって、従来のイメージとは異なる、新しい身体、スポーツ、体育、健康への見方を提案することが可能なのではないか、と考えています。また、それにより、一人ひとりに寄り添った健康や教育の考え方を提案できるものと考えています。

知的財産・論文・学会発表など

- 1) 中澤雄飛 (2024) 第13章「身体文化教育の視点から考える体育」、高橋徹編著『体育原理』、株式会社みらい。
- 2) 中澤雄飛 (2024) 第11章「体育哲学と芸道の思想」、日本体育・スポーツ・健康学会。体育哲学専門領域編、『体育の哲学』、不昧堂出版。
- 3) 中澤雄飛 (2021) 武道で育てる身体とは、雑誌『体育科教育』2月号、第69巻第2号。

その他

リスクコミュニケーション手法の検討と分析



宇都宮キャンパス リベラルアーツセンター 准教授

佐野 和美

SANO, Kazumi



その他

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.85cc7c1f0dfb9e1e.html>

宇都宮キャンパス

キーワード：科学コミュニケーション、リスク教育、環境教育、科学リテラシー

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 12：つくる責任、つかう責任

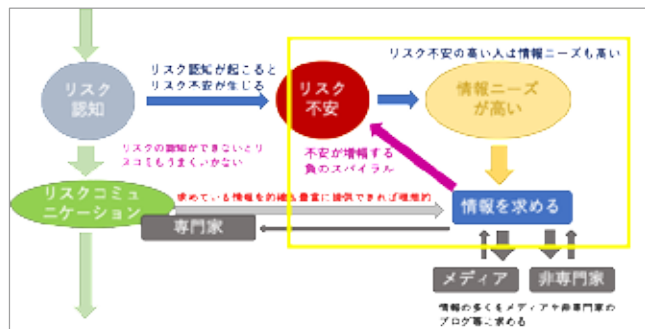
研究の概要

主に生物学分野での「科学コミュニケーション」が専門なので、科学リテラシーや教育の文脈でリスクを伝える手法の検討、メディアでの情報の扱われ方の分析などを研究している。これまで、福島第一原子力発電所の事故以降の放射能関連のリスクコミュニケーションを対象として研究してきた。最近は、環境分野など幅広いテーマを対象にし、専門的な研究内容、観測データや数値をわかりやすく伝える方法や大学等での環境・ESD 教育、リスク教育への応用を検討をしている。化学物質や食品に関する分野ではリスクコミュニケーションが盛んだが、そのほかの分野でも、リスク教育やリスクコミュニケーションに関わる事例分析・研究ができればと考えている。

リスクに対する不安が生じると、私たちは、さまざまな手段で情報を求める。現代は、インターネット

などで容易に多様な情報に触れられる便利さがあるのと同時に、玉成混交な情報過多の中から適切な情報を自ら見つけ出すスキルが求められている。

専門家からのリスクコミュニケーションにより、市民が自ら決断できるだけの適切な情報を適切なタイミングで伝えることができれば、市民の意思決定に役立つと考えられる。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

新しい科学技術の促進のためには、メリットのアピールだけでは十分ではない。そこから生じるであろうリスクを伝えることは、いまや、マイナス要因にしかならない。伝え方の工夫や、市民を巻き込んだ議論の場を設定することなどは、時間はかかるために敬遠されるが、そこに十分に時間をかけることこそが、新技術の受け入れに不可欠な時代だ。個別の事例ごとに手法も違う。伝える対象によって、適切な表現、見せ方、情報の切り取り方も違う。市民目線でのコミュニケーションを一緒に考えていけたらと思う。

知的財産・論文・学会発表など

1. 科学コミュニケーションの普及と活躍の場の拡大：日本分子生物学会での議論の紹介、佐野和美、飯田啓介、笹川由紀、山岸和、和田濱裕之、帝京大学宇都宮キャンパス研究年報人文編、25 巻、pp.35-54, 2019 年 12 月。
2. COVID-19 のリスクコミュニケーションに貢献するための支援活動－3.11 の経験を活かす科学コミュニケーション活動－、佐野和美、本田隆行、清水智樹、吉戸智明、横山広美、帝京大学宇都宮キャンパス研究年報人文編 26 巻、pp.51-69, 2021 年 1 月。

女性アスリートにおけるエネルギー不足の基準値の妥当性検証と関連する要因の解明



スポーツ医科学センター 助教

市川 麻美子 ICHIKAWA, Mamiko

URL : <https://researchmap.jp/ichiavi>



その他

八王子キャンパス

キーワード : energy availability、女性アスリート、エネルギー消費量

SDGs 目標3 : すべての人に健康と福祉を

研究の概要

チアリーディングは2017年にIOCからオリンピックの暫定競技に選出され、競技人口が年々増加している。競技チアリーディングの選手は、体重、体格の維持・調整が強く求められることが多い。その為、審美系競技に見られる過度な食事制限が見られる。審美系競技の選手は、減量を日常的に行なっていることが多く見られ、(Low Energy Availability; LEA) に陥りやすいと報告されている [小清水, 2008]。アメリカスポーツ医学会のポジションスタンドによると、女性アスリートの健康問題の一つとして利用可能エネルギー (Energy Availability; EA) が提起されるようになった [Nattiv A et al. 2007]。2014年には、国際オリンピック委員会による合同声明として、LEAの状態が続くと、女性ホルモン分泌や骨代謝のメカニズムに異常をきたし、無月経や骨粗鬆症など様々な健康障害を引き起こすという、相対的エネルギー不足 (Relative Energy Deficiency in Sport; RED-S) の概念が提唱された [Mountjoy M et al. 2023]。EAの評価基準値は、欧米人一般女性を対象とした研究で得られた値であるため、日本人女性アスリートにおけるEAの基準値になり得るかは不明である。また、LEAのカットオフ値は、エネルギー摂取量を過小評価する食事記録法を用いたエビデンスを基に定められている。そこで、習慣的なエネルギー摂取量を世界で最も正確に評価可能な二重標識水 (doubly labeled water; DLW) 法を用いて、EAの妥当性を検討する。また、スポーツ現場において、EAを評価する事は、DLW法の費用や測定者技術の問題点から測定が困難である。そこで、LEAに関連する要因について解明し、エネルギー不足を評価するための他の指標を明らかにする。

REDs Health Conceptual Model.



REDs Performance Conceptual Model.



BJSM

Margo Mountjoy et al. Br J Sports Med 2023;57:1073-1098

Copyright © BMJ Publishing Group Ltd & British Association of Sport and Exercise Medicine. All rights reserved

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究では、習慣的なエネルギー摂取量を世界で最も正確に評価可能な二重標識水法を用いて、女子大学生チアリーディング選手を対象に LEA の値を検討する。本研究結果は、スポーツ栄養分野における科学的根拠を基にした食事指導の一助になる。

知的財産・論文・学会発表など

論文 (査読あり)

・Sagayama H, Yamada Y, Ichikawa M et al. "Evaluation of fat-free mass hydration in athletes and non-athletes." European Journal of Applied Physiology 120 (2020): 1179-1188.

国内学会発表

・市川 麻美子等. 大学チアリーディング部における無月経、月経周期異常に関する実態調査, 日本臨床スポーツ医学会誌 30, 4 (2022) S325-S32

その他

たくさんの方々の Well-being を高める
活動の推進



スポーツ医科学センター 講師

岩野 華奈

IWANO, Kana



その他

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.ebbfd7976eb19627.html?mode=pc>

八王子キャンパス

キーワード：チアリーディング、スポーツコーチング、Well-being

研究の概要

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

チアリーディング部は「競技活動・応援活動・社会貢献活動」を活動の3本柱としている。

「競技活動」では、自身が目標達成に向かって挑戦し続ける姿で、他者に元気と勇気を与えることができる選手を育成している。

「応援活動」や「社会貢献活動」ではスポーツの魅力や価値を伝え、スポーツへの多様な関わり方をサポートすることを目的として、様々な取り組みを行っている。



↑ 競技活動 国際大会の参加



↑ 応援活動 出雲駅伝



↑ 社会貢献活動
キッズチアクリニック

これらの活動は全て学生が主体とな
て行われるため、学生のリーダーシップ
や人間力が高まり、さらに Well-being を
高める推進力とは何かを体感することが
できる。

また、私たちは競技での大学日本一を目指しているが、選手自身が心身ともに健康な状態で活動することは何よりも重要なことである。よって安全な活動を推進し、選手自身の Well-being を守るチームとして大学スポーツの良いモデルとなり、スポーツの発展に貢献したい。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

スポーツに情熱を持つ集団が、多様性の中でアイデアを出し合い、Well-beingを高める活動を推進していくため、学生が社会で必要な力を大いに磨くことができる。

また現代社会において Well-being の重要性は増すばかりであり、産業界においても推進力となる人材や組織が必要になる。スポーツと Well-being の結びつきは強いいため、現場で活躍するアスリートは推進力として大きな可能性を持っていると考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

チアリーディング 完全上達BOOK 監修 メイツ出版株式会社

運動後の筋損傷・筋痛からの回復促進方法の確立



スポーツ医科学センター 講師

佐賀 典生

SAGA, Norio



その他

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.ece8f2f62c09f154.html>

八王子キャンパス

キーワード：筋肉痛、筋損傷、自律神経活動、酸化ストレス

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

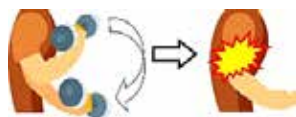
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

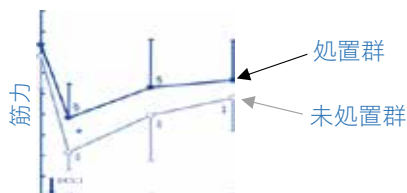
一般的に筋力トレーニングや伸張性収縮を多く含む強度の高い運動は、微細な筋損傷を引き起こし、いわゆる筋肉痛を生じるだけではなく、発揮筋力や関節可動域の低下などを引き起こす。

アスリートにとっては、パフォーマンスが低下しているだけではなく、その後のトレーニングの質を低下させる一要因となり得る。また、一般人や高齢者では、運動の継続性を阻害する要因となる可能性がある。

運動後に生じる筋損傷・筋痛を軽減させる、または回復を促進させ、コンディションを維持し、リカバリーを促進させるために、温熱処置、温浴、冷水浴、交代浴などを用いて、以下の観点から検討を行っている。



- ①コンディション状況と処置の関係
- ②筋痛・筋損傷と自律神経活動
- ③筋痛・筋損傷と酸化ストレス・抗酸化力



筋力の経日的変化のイメージ図

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

運動後に生じる筋肉痛・筋損傷は、さまざまな人の運動の継続を妨げてしまう一要因となる。そのため、単に筋力・筋量の向上のためだけでなく、運動を継続する一般人からアスリートのコンディションとパフォーマンスの向上のため、さらに、オーバートレーニングを予防するためにも、運動後に生じる筋損傷・筋痛からの早期回復を促す方策を探る点は、実学に通じると考えている。

知的財産・論文・学会発表など

- ・ Effect of heat preconditioning by microwave hyperthermia on human skeletal muscle after eccentric exercise. J. Sports Sci. Med.7,176-183.2008.
- ・ The Impact of 5-Aminolevulinic Acid Supplementation on Redox Balance and Aerobic Capacity. Inter. J Mol. Sci., 25, 2. 2024.

スポーツと徳性の強みの関係性



冲永総合研究所 助教
霜鳥 駿太 SHIMOTORI, Shunta



その他
(スポーツ心理)

URL : https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202201005040766050

霞ヶ関キャンパス

キーワード：ポジティブ心理学、Character Strengths、強み・長所

研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

ポジティブ心理学の中核に徳性の強み研究がある。図のように、徳性の強みは、6つの美德とその下位概念である24の強み・長所で構成されている(Peterson & Seligman, 2004)。

スポーツは徳性の強みを育む力を有しているだろう。なぜなら、徳性の強みの構成概念である「勇敢」「勤勉」「熱意」は、日々の練習に取り組む上で必要であり、チームワーク、リーダーシップ等はパフォーマンスの発揮に必須と考えられるからである。

しかしながら、スポーツと徳性の強みの関係は国内において不明である。そのため、スポーツとポジティブな徳性の関係について研究を進めてきた。

これまでの研究において、徳性の強みを測定する尺度を対象者に合うように再編し、部活動経験(種目の種類やその継続性)について検討してきた。その結果、運動部と文化部のどちらであっても、情熱をもち、粘り強く課題に取り組むことがポジティブな徳性に関連することが示唆された。現在は、スポーツのどのような経験や体験がポジティブな徳性に関連するのかを検討している。

美德	長所	美德	長所
①知識・知恵	1 独創性	④正義	13 チームワーク
	2 好奇心・興味		14 平等・公平
	3 判断		15 リーダーシップ
	4 向学心	⑤節度	16 寛大
	5 見通し		17 謙虚
②勇気	6 勇敢		18 思慮深さ・慎重
	7 勤勉		19 自己コントロール
	8 誠実性	⑥超越性	20 審美心
	9 熱意		21 感謝
③人間性	10 愛		22 希望・楽観性
	11 親切		23 ユーモア・遊戯心
	12 社会的知能		24 精神性

図 徳性の強みの構成概念

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

スポーツは本当に人を育てるのか。これをリサーチクエストとして研究を進めている。これまでスポーツと性格形成、人間形成についての研究が進められてきた。例えば、スポーツをする人は「健康的、明朗、忍耐力がある」との報告がある(花田他, 1966)。しかしながら、スポーツの経験や体験による人間形成のエビデンスは見当たらない。そのため、徳性の強みという人間の普遍的な強み・長所を測定可能な心理的指標を用いることで、スポーツによる人間形成の新たな知見を得ることができると考えた。それらの知見は、体育・スポーツの新たな価値を示すことにつながるだろう。

知的財産・論文・学会発表など

- 【論文：査読付き】
- ・霜鳥駿太, 木内敦詞, 西田順一, 中雄勇人, 松岡弘樹. 運動部活動経験と徳性の強みの関係 -日本版生き方の原則調査票を用いて-. 応用心理学研究. 2023. 49. 2. 130-140
 - ・霜鳥駿太, 西田順一, 桜井美加. 中学生サッカー選手が経験する心理的ストレスとその対処方略-北関東地域のJリーグ・ジュニアクラブ者と運動部活動者を単一事例とした検討から-. 北関東体育学研究. 2018. 3. 1. 18-24

数理工学の基礎と応用



先端総合研究機構 AI 活用部門 特任教授

甘利 俊一

AMARI, Shun-ichi



その他

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.635d44c437208dcb.html>

板橋キャンパス

キーワード：数理工学、情報幾何学、数理脳科学、人工知能と学習

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

数理工学、すなわち理学、工学などの基礎的な諸課題に対して、現代数学を活用してその本質に迫り、数理的な理論体系を築くと共に、その応用を目指している。

具体的には、情報の仕組みを幾何学を用いて解明する情報幾何学を建設した。さらに、人工知能や脳科学にこれを持ちようとしている。

数学 ⇒ 数理工学

情報幾何学 数理脳科学 ⇒ 人工知能

人工知能時代の社会と文明について

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

数理はすべての基礎にある。これから、その必要度はますます高まるであろう。

知的財産・論文・学会発表など

- ・ S. Amari, Information Geometry, Springer, 2016
- ・ 甘利俊一、めくるめく数理の世界、サイエンス社、2024

その他多数。

その他